

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

- ① 満期保有目的の債権 償却原価法(定額法)
 ② その他の有価証券 時価のないもの 移動平均法による原価法

(2) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産については、定率法を採用しております。

(3) 消費税等の会計処理

消費税の会計処理は、税込み方式によっております。

2. 会計方針の変更

該当ありません。

3. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産の増減額及びその残高は、次のとおりです。

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
土地	7,761,110	—	—	7,761,110
建物	810,389	—	162,076	648,313
展示品(不可欠特定財産)	3,100,000	—	—	3,100,000
投資有価証券	51,500,000	—	50,000,000	1,500,000
普通預金	100,000,000	50,000,000	—	150,000,000
定期預金	126,021,948	—	—	126,021,948
小計	289,193,447	50,000,000	50,162,076	289,031,371
特定資産				
バーチャル博物館等引当資産	30,000,000	—	—	30,000,000
記念館経営安定基金	107,494,980	—	7,434,980	100,060,000
記念館管理運営基金	19,597,170	—	2,979,821	16,617,349
投資有価証券	43,710,640	—	—	43,710,640
小計	200,802,790	—	10,414,801	190,387,989
合計	489,996,237	50,000,000	60,576,877	479,419,360

4. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりです。

科目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
土地	7,761,110	(7,761,110)	—	—
建物	648,313	—	(648,313)	—
展示品(不可欠特定財産)	3,100,000	—	(3,100,000)	—
投資有価証券	1,500,000	(1,500,000)	—	—
普通預金	150,000,000	(150,000,000)	—	—
定期預金	126,021,948	(150,840)	(125,871,108)	—
小計	289,031,371	(159,411,950)	(129,619,421)	—
特定資産				
バーチャル博物館等引当資産	30,000,000	(16,000,000)	(14,000,000)	—
記念館経営安定基金	100,060,000	(100,060,000)	—	—
記念館管理運営基金	16,617,349	(16,617,349)	—	—
投資有価証券	43,710,640	(43,710,640)	—	—
小計	190,387,989	(176,387,989)	(14,000,000)	—
合計	479,419,360	(335,799,939)	(143,619,421)	—

5. 担保に供している資産

該当ありません。

6. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりです。

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物	32,142,598	31,494,285	648,313
構築物	334,750	331,401	3,349
什器備品	4,912,600	4,912,600	—
合計	37,389,948	36,738,286	651,662

7. 債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高

該当ありません。

8. 保証債務等の偶発債務

該当ありません。

9. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

該当ありません。

10. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は次のとおりです。

内容	金額
経常収益への振替額	
記念館経営安定基金取崩	7,434,980
記念館管理運営基金取崩	2,979,821
合計	10,414,801

11. 関連当事者との取引の内容

該当ありません。

12. 重要な後発事象

該当ありません。

13. その他

該当ありません。